



# 令和8年度 学校経営計画

八王子市立七国小学校  
校長 市川利幸

## 〈教育目標〉

自分を伸ばします ○すすんで学びます ◎心をみがきます ○体をきたえます

- ① 「すすんで学ぶ子」を育成するため、実生活・実社会と関連づけた主体的・探究的な学びを推進する。
- ② 学校生活や社会生活を創りながら「心をみがく子」を育成するため、基本的な社会性を身に付け「日本一優しい学校」づくりに向けた児童の主体的な取組を推進する。
- ③ 「体をきたえる子」を育成するため、めあてをもって努力し協力して解決や達成をめざす態度と心身の健康づくりを推進する。

## 1 学校経営の基本理念

急速かつ劇的に変化する次代において、主体的・協働的・創造的に「よりよく課題を解決し行動、改善する資質・能力」や、多面的・多角的視点から「持続発展可能な社会づくり」に貢献する力を身に付けることが学校教育の喫緊の課題である。そして、学びは実生活や実社会、子どもたちの未来に生きるものでなくてはならない。

本校、家庭、地域社会が「未来への挑戦」を共通目標とし、長期的な視点で社会に開かれた教育課程を編成・実施・改善することで、知・徳・体をバランスよく育み、時代の変化に対して折れることのない「幹」の育成と、しなやかな「個性の伸長」に重点をおいた「人間教育」を推進する。

## 2 めざす学校像 ～『未来に挑戦する日本一優しい学校』～

「未来に挑戦する日本一優しい学校」を共通目標に、学校・家庭・地域が協働することにより

- ① 学びの主体である子ども「一人ひとりの成長にチームで伴走」できる学校
- ② 生きた学びを通して、主体的・協働的に「次代に挑戦できる力」を身に付ける学校
- ③ 学校全体で「心理的安全性」を担保し、「優しさ」や「あたたかさ」に包まれた学校  
(不登校児童・家庭への包括的支援、いじめ防止等の組織的取組の徹底を含む)
- ④ 生きる上で必要となる人間性や社会性を身に付ける学校  
(子ども同士のトラブルに対し「迅速な解決」にとどまらず、確実に「成長」に結びつける)
- ⑤ ねばり強くやりとげられる健康・体力を身に付ける学校
- ⑥ 七国地区学園都市構想の推進から、縦(学びの連続性)と横(地域協働)の仕組みを最大限に活かし、子どもの育成を長期的・包括的に図る学校
- ⑦ 教育課題に常に正対し、子ども・教職員が Try&Error による「よりよい学校づくりにチームで挑戦」できる学校
- ⑧ 時代の変化に向き合うとともに、「教育の本質」を追い求める学校
- ⑨ 学校を核として、全員(子ども、教職員、保護者、地域全体)が成長できる学校

## 3 めざす児童像

- ① 自己発揮・自己実現しながら「すすんで学ぶ子」  
\*自ら追求し、友達と学びあって深める「主体的・対話的で深い学び」の推進  
・仕組みや概念の「気付きの観点」(「見方・考え方」)の蓄積と他事象(他単元)での活用  
・校内研究を核に「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり、ICTの効果的活用  
・対話場面の「内容」と「方法」の両輪を大切に(Why「目的」(何のために話し合うのか)、What「内容」(何について)、Who「相手」(誰に・誰が)、How「方法」(どうやって))

- ・「学び合い、高め合える学習集団」づくり（教え合える・認め合える・出し合える・安心して間違えられる）
- \* 「個別最適な学びと協働的な学び」の一体的な充実
  - ・東京都「デジタルを活用したこれからの学び」指定校による先行実施、公開。
- \* 「学習の個性化に対応した学び」の推進
  - ・東京都「デジタルを活用したこれからの学び」指定校による先行実施
  - ・子ども自身が「学び方を身に付ける」学習へ
    - 【子どもたち自身が学びを調整・獲得できる授業づくり】
  - ・子どもによる「課題」「学習方法」と「学び方が選択・計画できる授業」づくり。
- \* 「習熟度に合わせた個別最適な学び」
  - ・「基礎・基本の定着に重点をおいた学び」と「伸びる子をより伸ばす」、個別最適な学習の開発・推進
- \* 探究的・課題解決的な学びの推進
  - ・実生活、実社会と関連付けた学び（実生活や実社会、子ども達の未来に生きる学び）
  - ・各教科等における主体的な学びと、教科横断的な学び（探究）の融合
- \* 地域教育資源を最大限に活用した学びの推進（「地域とともに学ぶ」）
  - ・地域における「良質な体験」（ヒト、モノ、コト）との出会いとねらいに沿った「気付き」
- \* 学びにおける「Try&Error」の保障
  - ・挑戦と失敗の過程こそ最大の学びと成長

## ② 学校生活や社会生活を創りながら挑戦を繰り返して「心をみがく子」

- ～学校全体で児童、教職員の「心理的安全性」を担保し、
  - \* 子どもと教職員の「心理的安全性」の担保し、「優しさとあたたかさ」に包まれた学校、「よりよい学校」づくりへの挑戦を繰り返す。
  - \* 全教育活動を通した「心」の育成、規範意識の醸成（型の指導と心の耕しの両輪）
    - ・「人間理解に基づく組織的指導・支援」の徹底を図り、児童に不安やトラブルが生じた場合は、組織力を生かして迅速・丁寧な聞き取りを行うことで心的状況を整理し、子どもの解決を包括的に支援することで子ども達の成長の機会とする。
    - ・「日本一優しい学校」づくりに向け、挨拶・笑顔・協力を大切に、惜しみない愛情をかけ、一人一人の子どもとの心理的距離を近づけることで、子どもの心理的安全性を担保する。
  - \* 自尊感情・相手意識の向上とコミュニケーションスキルの育成
    - ・全教育活動を通して望ましいコミュニケーションスキルを育成する。
  - \* 「いじめ対応は第一優先」。いじめ対策委員会を核とした迅速かつ組織的対応
    - ・いじめの芽の発見段階で組織的かつ迅速に即日解決を目指す。
    - ・子ども、保護者が安心して相談できる体制と学校への信頼感を確保するとともに、生活調査アンケート、子ども見守りシート、Q-U 調査、保護者からの連絡等で、子どもや保護者の不安が生じた場合は、迅速・丁寧な聞き取りから組織的に解決するとともに、子どもの成長に結びつける。
  - \* 「自分たちがつくる」学校の意識化
    - ・子どもが「学級・学校づくりの主体」（⇒（将来）地域・社会づくりの主体へ）
    - ・学級・学校・地域等の課題について、仲間とともに、主体的に考え、判断し、行動、改善

## ③ チャレンジの気持ちをもって「体をきたえる子」

- \* 家庭と連携した望ましい生活習慣の定着
  - ・日常的な健康の維持と増進を意識した生活習慣と、食を通して自らの将来について考える食育の充実。
  - ・子どもが自ら考え危険を予測して回避する安全教育と、将来を見据えた体力づくりに向けた取組の充実

## 4 めざす教師像

- 一人ひとりの子どもに対し、愛情を存分に注ぎ、子ども達の成長の支援者として横を歩く教師  
→チームとして「人間理解に基づく組織的指導・支援」の徹底と指導スキルの獲得

- 子どもたちが将来安心して社会自立できるよう、必要な資質・経験を身に付けられる教師  
→子ども達が将来「必要とする力」を常に考え、教育活動を通し創造的に挑戦できる教師
- 目標に向かって「チーム」で協働できる教師  
→評価者にならず、チームで知恵を出し合い協働し解決する組織（クラスの課題はみんなの課題）
- 「授業で勝負できる教師」  
→教科の本質的な面白さに気付かせ、「主体的・対話的で深い学び」（学びの質）に挑戦できる教師
- 「実生活・実社会と関連付けた学び」に挑戦できる教師  
→学校での学びは学校教育で閉じるものではなく、実生活や実社会、子どもたちの未来に生きるものとしてとらえる。
- 教師自身が「Try&Error」を恐れず、子ども達にも「Try&Error」による学びを保障できる教師  
→教師主導型授業から、「サポート型授業」「個別最適な学習」の開拓
- 子どもの成長のために、保護者、地域と「連携・協働」できる教師  
→保護者等の思いを受け止め、信頼関係を構築し協働できる（保護者・地域と力を合わせて子どもを成長させる）  
→子どもの学びを支える地域資源の開拓・活用
- 安心して学べる環境をつくりだすことができる教師  
→いじめの防止、授業規律、言語環境、安心して失敗できる授業づくり
- 幼稚園・保育園（スタートカリキュラム）から、小中9年間（小中一貫教育）、将来の視点で、子どもを学びの躓きを把握し、教育活動を工夫・改善できる教師

## 5 校長の約束（教職員が安心して子どもの教育に専念できるように）

- 教職員の「心理的安全性」を担保します。苦しい対応について管理職が積極的に関わります。
- 教職員の「Try&Error」を保障します。
- 教職員一人一人の長所を伸ばし活かすことで、学校の組織力を向上させます。
- 授業にやりがいと手ごたえを感じられるよう、教育活動の支援・助言に取り組みます。
- 教職員が子どもの教育活動に専念しやすいよう、教育活動の重点化と精査を進めます。
- 教職員及び家庭が心と体の健康を維持できるよう必要な業務配慮に取り組みます。
- 教職員一人一人のキャリアプランを丁寧に支援します。

～ 校長も「チーム七国」の一員としていつでも相談に乗り、考え、判断し、行動します。～

## 6 中期的な目標と方策

- ①確かな学力の育成 ～すすんで学びます～  
学びあい、高めあうことができる学級集団づくりと合わせ、学びにおける「Try & Error」を保障する中で、実生活・実社会における課題と関連付けて学び。児童が主体的に概念や仕組みに気付き、課題解決に生かせる学習過程を推進する。 【自己発揮・自己実現】
- ②豊かな心の育成 ～心をみがきます～  
地域・保護者と共に歩む常に開かれた学校（コミュニティスクール）として、「心理的安全性の確保」と「人間理解に基づく組織的指導・支援」の徹底。「いじめの対応は第一優先」とし、迅速かつ即日解決を目指すとともに、いじめの芽が発生しにくい環境づくりに取り組む。生きる上で必要となる人間性や社会性を身に付け、「自らの生き方を考え行動する力」の育成を図る。 【日本一優しい学校づくり】
- ③健康・体力の育成 ～体をきたえます～  
望ましい生活習慣の定着と日常的な健康・安全教育、食育の充実を家庭と連携して図る。また、「七国小学校 体力向上ハンドブック」の活用とともに、運動の日常化と健康づくりについて考え行動する力を育て、目標達成に向けてチャレンジする力を養う。 【健康的な生活・運動の習慣化】
- ④ 七国学園都市構想の推進  
豊かな七国地区の地域力（保育園・幼稚園・小学校・中学校・高校・大学・企業）の集合体である「街」の特性を見つめなおし、最大限に生かした学園都市構想の推進。  
【キャリア・未来デザインの推進、小中一貫教育の更なる推進】

## 7 令和8年度の取組目標と方策

目 標	方 策
<p>〈確かな 学力の育成〉</p> <p>→自己発揮 ・自己実現</p>	<p>○東京都「デジタルを活用したこれからの学び」への挑戦（2年次）及び 八王子市教育課題研究推進校「教育DX」（1年次）</p> <p>東京都「デジタルを活用したこれからの学び」、八王子市教育課題研究推進校「教育DX」指定校の取組を校内研究に位置付け、授業開発を行うとともに、効果的な実践を市内小・中学校に公開・発信することで、市内小中学校の取組をけん引する。</p> <p>○「個別最適な学び」の推進と子どもが「学び方を身に付ける」学習の開発</p> <p>学習支援者としての教師が、子どもが主体的に学び方を獲得できるよう、「自分に合った学び方を選択できる授業」、「自分に合った学び方を計画し実行してみる機会」（家庭学習を含む）づくりを試行する。また、学力の二極化の対応として『学力向上推進計画』に「基礎・基本の定着」と、「伸びる子をより伸ばす」の2本軸に重点をおき、児童が自分に合った学び方を選び（見付け）、主体的に取り組む学習を全学年で研究・実施する。</p> <p>○『学習の個性化に対応した学び』の推進</p> <p>東京都「デジタルを活用したこれからの学び」指定校の取組と八王子市教育課題研究「教育DX」を校内研究に位置付ける。各教科などにおいて、一人一人の興味・関心を活かし、学習課題や学び方を児童が自ら選択・決定し、協働的な学びを通して、主体的・対話的で深い学びを実現する。市内小中学校と実践を共有・発信することで、「デジタルを活用したこれからの学び」の推進を図る。</p> <p>○「実生活、実社会に生きる学び」の推進</p> <p>各教科等での学習を実生活・実社会上の課題と関連付けて学ぶことで、児童が主体的に概念や仕組みに気付き、実生活・実社会上の別事象の課題解決に活かす学習を推進する。</p> <p>○「学び合い、高め合う学習集団」づくり</p> <p>安心・信頼できる学級経営を土台に、落ち着いて学ぶことができる学級（授業規律）づくりを行う。子どもの主体性を高め、「学び合い、高め合う学習集団」を形成する。学びにおける「Try&amp;Error」を保障し、集団効果を最大限に活かした学びを進める。</p> <p>○学びにおける「Try&amp;Error」の保障</p> <p>子ども達の主体的な学びを推進するために、教師と子どものTry&amp;Errorの機会を尊重し、主体的な学びの獲得の機会を最大限に支援する。</p> <p>○地域教育資源を最大限に活かした「探究的な学び」の推進</p> <p>『七国地区学園都市構想』により構成された地域教育資源を最大限有効に活用し、「八王子市未来デザイン2040」との関連を図りながら、人との関わりや体験を積極的に取り入れ、情報を収集・整理する過程で、児童が学習課題を見付け解決・提案し未来を切り拓く探究的な学習を重視する。</p> <p>○小中9年間を見通した「確かな学力」の育成</p> <p>「学力向上プロジェクトチーム」（小中一貫教育）各分科会での協議内容を深化させる。小中学校9年間を見通した学習の躓きや改善策を共有することにより、小・中学校による切れ目のない学びの在り方を追究する。また、本校の校内研究への中学校教員の参加を通し小中学校が指導法を相互に学び9年間を通した効果的な学びを共有する。</p>

	<p><u>○ICTの効果的活用</u> 東京都「デジタルを活用したこれからの学び推進校」、八王子市教育課題研究推進校「教育DX」に校内研究として取り組み、ICTを効果的に活用した授業力向上につなげるとともに、東京都教育委員会作成資料を日常的に実践し、実効的・効果的なICT活用の発信に寄与する。</p>
<p>〈豊かな心の育成〉 →「日本一優しい学校」づくり</p>	<p><u>○子どもと教職員の「心理的安全性」の担保</u> 挨拶・笑顔・協力を大切に、子供に惜しみない愛情をかけることで子供の心理的安全性を担保するとともに、関わる全ての教職員の心理的安全性も徹底して担保することで、「日本一優しい学校」づくりの原動力とする。</p> <p><u>○「人間理解に基づく組織的指導・支援」の徹底</u> 全学年副担任制の導入。児童に不安やトラブルが生じた場合は、組織力を生かして迅速・丁寧な聞き取りを行うことで心的状況を整理し、子どもの解決を包括的に支援することで子ども達の成長の機会とする。</p> <p><u>○全教育活動を通じた「心」の育成、規範意識の醸成</u> 「日本一優しい学校」づくりに向け、自尊感情・相手意識の向上とコミュニケーションスキルの育成する。全教育活動を通して自尊感情や相手意識を高めるとともに、望ましいコミュニケーションスキルを育成する。各学年における「コミュニケーションスキル」の時間をはじめ、特に児童間のトラブル時は、互いの気持ちに重点をおいた聞き取りにより情報整理し、「自分の気持ちの伝え方」や「注意の仕方」、「気持ちの確かめ方」、「ヘルプの出し方」等、子どもとともに考え、自立的な成長につなげる。</p> <p><u>○「いじめ防止」の徹底</u> 「いじめ対応は第一優先」、「即日解決」を基本とし、児童や保護者の「不安を把握した段階」で、迅速に情報を共有し、一刻も早い不安の解消を組織的に行う。いじめ対策委員会を核とした迅速かつ組織的対応により、いじめ防止に努めるとともにいじめの芽の発見段階で組織的かつ迅速に即日解決を目指す。</p> <p><u>○いじめの芽が発生しにくい学校づくり</u> 子ども・保護者が安心して相談できる体制を確保するとともに、生活調査アンケート、子ども見守りシート、Q-U調査、保護者からの連絡等で、子どもや保護者の不安が生じた場合は、迅速・丁寧に聞き取りを行い組織的な解決を目指す。経営支援部を中心とした校務精査により、教員が子どもと直接向き合う時間を確保する。児童のコミュニケーション能力の向上を図るとともに、児童主体のいじめ防止の取組の充実を図ることで、いじめが発生しにくい学校づくりを推進する。</p> <p><u>○「子どもが主役の学校」（「自分たちがつくる」学校）</u> 子どもは「学級・学校づくりの主体」であり、将来、地域・社会づくりの担い手である。小学校段階から学級・学校・地域等の課題について、仲間とともに、主体的に考え、判断し、行動、改善する活動を教育活動に計画的に取り入れる。</p> <p><u>○地域で安心して成長できる学校生活、社会生活づくり</u> 「七国地区学園都市構想」の推進を主軸に、地域教育力を長期的かつ最大限に活かした教育活動、活力ある街づくりの推進する。地域の幼稚園・保育園と連携した「保幼小の架け橋期カリキュラム」の活用。七国中学校と連携した生活指導に取り組むとともに、いじめ防止、学校生活のきまり、学習用端末活用のきまり等の協議・連携を実施する。</p> <p><u>○「自らの生き方を考え行動する力」の育成と「心を動かす体験」の重視</u> 「保護者・地域協働型キャリア教育」の推進や、体験活動や植生物の観察芸術・文化活動を通し、子ども達に豊かな感性を培う。</p>

	<p>○<u>リーダーシップ・メンバーシップの育成と交流および共同学習の推進</u> たてわり活動や異学年交流の工夫・改善と通常学級と特別支援学級の意図的・計画的な交流及び共同学習の推進</p> <p>○<u>郷土愛の醸成を図る</u> 八王子市の食や自然や産業、歴史、文化等についての交流・体験を通じた郷土学習の推進。「まちづくり」への主体的な参画を促す。</p>
<p>〈健康・ 体力の育成〉</p> <p>→健康的な生活 ・運動の習慣化</p>	<p>○<u>家庭と連携した望ましい生活習慣の定着と</u> <u>日常的な健康・安全教育及び食育の充実</u> 健康な生活習慣の確立に向けた健康教育、食育等を家庭・地域と連携して取り組む。「生活安全」「交通安全」「災害安全」に関わる安全教育を徹底し、身近な危険を予測し、自他の安全に配慮して安全な行動をとることができるよう育成する。校内事故や怪我の状況、健康診断結果、感染症の状況等を積極的に把握し発生要因を調査することで、施設管理や感染症拡大防止対策、体力向上対策、食物アレルギー対応の徹底など、家庭と連携した生活環境改善を進める。</p> <p>○<u>体育授業の工夫改善と、体力づくりに向けた取組の充実</u> 「七国小学校 体力向上ハンドブック」の作成及び全学年での活用、中学校体育との連携を通し、体育授業の改善を図るとともに、運動の日常化を目指した「朝の体力づくり時程」、全校で縄跳び運動等、「七国小学校2020レガシー」（鉄棒）と連想した取り組みを進める。</p> <p>○<u>けがの未然・再発予防や、けがをしにくい体づくり、感染症の予防</u> 養護教諭を中心とした実際の学校での実態を共有し、教育活動を工夫するとともに、保護者や地域への情報発信に努める。</p> <p>○<u>「ビジョントレーニング」と「体幹トレーニング」への導入</u> 「ビジョントレーニング」の取組を試行することにより、視野の狭窄や動体視力等を向上させることで、事故の防止や、運動能力の向上を図る。また、「体幹」を鍛えるための体育授業の工夫改善や、授業中の姿勢についても全校での共通指導とする。</p>
<p>〈地域の力を 生かした教育 活動の推進〉</p> <p>→小中一貫教育、 キャリア・未来デ ザインの推進 →地域の力を生か した活動の推進</p> <p>【七国地区 学園都市構想】</p>	<p>★<u>「七国地区学園都市構想」の推進</u> 東京家政学院大学、近隣保育園・幼稚園、七国中学校、連携高校、地元企業、自然団体及び行政との連携による学園都市構想の推進を図ることで、地域の教育資源を最大活用したキャリア教育の推進と、活性化ある街づくりを進める。 年3回関係者会議を開催し、相互の組織理解と信頼関係を構築するとともに、WinWinの関係を模索し、効果的な取り組みを地域協働の視点で推進する。</p> <p>○<u>「保護者・地域協働型キャリア教育」の推進と主体的な街づくりへの参画</u> 「八王子未来デザイン2040」の趣旨を踏まえ、「未来の八王子」のまちづくりに児童が主体的に参画する力を身に付けるとともに、「七国地区学園都市構想」の機能を最大限に生かし、長期的・包括的な視点でキャリア教育を推進し、保護者・地域の様々な方々の生き方を学ぶ機会をもつことで、自己の「生き方」を深く考え、主体的に将来に挑戦する力を身に付ける。</p> <p>○<u>地域教育資源の最大活用による学校教育力の向上</u> 豊かな七国地域の教育資源の開拓・活用に努め、総合的な学習（探究学習）を中心に、「良質な体験」（ヒト、モノ、コト）と、ねらいに沿った「気付き」を通して生きた学びを獲得させる。</p> <p>○<u>小中一貫教育の推進</u> 「八王子市小中一貫教育に関する基本方針」改定の趣旨を踏まえ、地域に生きる子どもたちの9年間の発達・成長を見通して、七国中学校と小中一貫教育を切れ目なくつなぐ教育活動を計画・実施する。</p>

	<p>○「七国小中ふれあいタイム」の充実  七国小児童会と七国中生徒会の連携による あいさつ運動及びユニセフ募金、児童・生徒の交流を目的とする「小中ふれあいタイム」、部活動見学及び中学校授業体験、生活科七国中学校探検、合同学校保健委員会、青少年対策七国地区委員会の清掃活動等、地域行事へ2校合同参加を行う。</p> <p>○「八王子未来デザイン 2040」の活用と「保護者・地域協働型キャリア教育」  「未来の八王子」のまちづくりに児童が主体的に参画し、自分の「やりたい」に挑戦しながら笑顔で自分の道を歩めるよう、地域教育資源を最大限に活用したキャリア教育活動を小中学校9年間の視点で展開する。</p> <p>○学校教育支援活動の充実  子どもの育成に直接かかわる、サポーター、ボランティア、支援員の効果的活用による学校支援活動の充実と拡充・育成を図る。</p>
<p>学校組織力の強化</p>	<p>◎学級減に伴う副校長1名体制への移行への対応として、学校組織力・対応力の強化を図る。特に生活指導、保護者対応の強化に向け、生活指導部を核とした、学年単位の生活指導の推進を図る。また、9年度より更なる学級減に伴い、養護教諭1名減に向けた体制の変更に着手する。</p>